



# Perplexity Computer & Personal Computer : 知財業務への影響分析

## エグゼクティブサマリー

Perplexityは2026年2月に**Perplexity Computer**（19モデルを統合したマルチエージェントクラウド基盤）、3月11日の開発者会議「Ask 2026」にて**Personal Computer**（Mac miniをローカル拠点とする24時間稼働型エージェント）を相次いで発表した。両製品は、AIを「回答生成ツール」から「ワークフロー実行エンジン」へと転換させる設計思想を共有しており、特許調査・明細書作成・中間応答・ポートフォリオ管理を含む知財業務全般に対して、機会と脅威の双方から多大な影響を与える可能性がある。本レポートはその具体的な影響を多角的に分析する。[1][2]

## 1. 両製品の技術概要

### 1.1 Perplexity Computer（クラウド型）

2026年2月にローンチされたPerplexity Computerは、複数の最先端AIモデルを統合し、リサーチから成果物生成までのワークフロー全体を自律実行するエージェント基盤である。その設計の核心は**マルチモデルオーケストレーション**にある。[1]

- **コア推論エンジン** : Opus 4.6が全体判断を担い、タスクに応じて最適モデルヘルパーティング[1]
- **役割分担の例** : Gemini（ディープリサーチ・サブエージェント生成）、GPT-5.2（長文コンテキスト理解）、Grok（軽量タスクの高速処理）、専用モデル（画像・動画生成）[1]
- **統合ツール群** : ファイルシステム、CLIツール、ブラウザ（リアルタイムWebアクセス）、外部コネクタ、永続メモリ[1]
- **処理能力の実証** : CEOのAravind Srinivas氏によれば、16,000件超のクエリをMcKinsey・Harvard・MITなどの機関ベンチマークと比較した結果、4週間で3.25年分の業務量をこなし、社内人件費を160万ドル（約2.5億円）削減したと報告されている[1]

CEOはSteve Jobsの言葉「Musicians play their instruments, I play the orchestra.」を引用し、本製品を「AIオーケストレーター」と位置付けた。[1]

## 1.2 Personal Computer (ローカル・クラウドハイブリッド型)

2026年3月11日に発表されたPersonal Computerは、Perplexity Computerをユーザーのローカル環境に拡張したものである。[3][2]

- **物理基盤**：専用Mac miniが「AIの物理的拠点」として24時間365日稼働する[3][1]
- **アーキテクチャ**：ローカルファイルアクセス+デスクトップアプリ連携 (Notion, GitHub, Salesforce, Gmail, Slack, Snowflakeなど400以上) とPerplexityのクラウドオーケストレーション層 (20以上のフロンティアモデル) を統合[4][5]
- **操作性**：どのデバイスからでもリモートアクセス・制御が可能で、システムは「never sleeps (決して眠らない)」と表現されている[6][7]
- **セキュリティ機能**：機密性の高い操作には本人の承認を必須とし、全セッションの監査ログを保持、即時停止のためのキルスイッチを装備[8][7]
- **提供状況**：現時点はウェイトリスト制の早期アクセス段階。Perplexity MaxおよびEnterprise Maxユーザー向けに順次提供予定[5][1]

## 1.3 Computer for Enterprise (企業向け)

同時に発表されたComputer for Enterpriseは、20の専門モデルへのルーティング、400以上のアプリ連携、Slackとの統合 (チャンネル経由でのコーディング・ダッシュボード・財務モデル作成の自律実行) を特徴とし、セキュアなサンドボックス上で動作する。[1]

---

# 2. 知財業務における機会 (ポジティブインパクト)

## 2.1 先行技術調査・特許ランドスケープ分析の高速化

現状でもPerplexityのPatentsツールは、自然言語クエリをUSPTO・EPO・各国特許庁の構造化クエリに変換し、複数管轄を横断的に検索する能力を持つ。Perplexity Computerが加わることで、この先行技術調査はエンドツーエンドの自律ワークフローへと昇格する。[9]

具体的には、ユーザーが「この発明の新規性を検証せよ」と指示するだけで、エージェントが以下を自律実行することが想定される：

1. 特許DB横断検索 (CPC/IPCコードへの自動マッピング含む) [10]

2. 引用文献の収集・要約・クレームマッピング（セマンティック検索による構成要件別差異抽出） [11]
3. 競合企業・発明者の出願傾向分析 [11]
4. 検索ログ・証拠パックの自動生成（監査可能な形式） [11]

AI支援特許調査ツールは、純粋なキーワード検索と比較してクエリ反復時間を40～60%削減できるとされており、Perplexity Computerの統合環境はこの効率をさらに高める可能性がある。 [12]

## 2.2 OA（中間応答）対応ワークフローの効率化

特許出願の86～90%が初回OAを受け取るという現実において、OA対応の効率化は知財コスト最適化の最重要課題である。2026年の生成AI活用先進事例では： [13]

- 応答書ドラフト（シェル）の作成速度：従来比**5倍**の高速化が報告されている [13]
- 全体的な作業時間削減：30～50%の削減が実現可能とされる [13]
- 記載不備（第112条相当）の削減：AI活用で44%削減、OA発生件数全体を18%低下させた事例もある [13]

IP専門家の77%が生成AIでの時間・コスト削減を積極的に模索しており、58%がすでにポジティブな影響を確認している。Perplexity Computerの「永続メモリ」機能は、審査履歴を蓄積してより文脈整合的な応答書ドラフトを生成することを可能にし、複数回のOA対応においても一貫した戦略維持を支援する。 [13]

## 2.3 特許明細書作成・発明抽出の加速

Personal Computerのローカルファイルアクセス機能は、知財業務に直接的なインパクトをもたらす特筆すべき変革である。

- **発明抽出の自動化**：ローカルに保存された技術メモ、試作レポート、研究データをAIエージェントが能動的に読み込み、未整理技術情報から発明候補を自動抽出・構造化する [14] [15]
- **明細書ドラフト生成**：抽出した発明情報から請求項・要約・明細書の初期ドラフトを自動生成する [15]
- **内製化の促進**：日本の大手製造業では、従来約15時間かかっていた弁理士への出願依頼文作成が90%の時間短縮を実現した事例がある [16]

知財業務に特化した日本の「知財AI™」（リーガルテック株式会社）は、特許調査・出願書類作成・知財戦略立案において作業時間40～70%削減を謳っており、Perplexity ComputerとPersonal Computerの組み合わせはこれと同等以上の機能を汎用プラットフォームとして提供しうる。 [14]

## 2.4 ポートフォリオ管理・競合インテリジェンスの高度化

マルチエージェントアーキテクチャにより、次のような知財戦略業務の自律化が現実味を帯びる：

- 競合他社の出願動向の定期モニタリングと自動レポート生成
- 特許ポートフォリオの強弱分析とホワイトスペース特定
- 期限管理・ドCKETティングの自動アラート（Slack・メール連携）

AI支援特許起草ツール市場は2025年の2.5億ドルから2033年には約8億ドルへ、年平均15%のCAGRで拡大すると予測されており、Perplexity Computerはこの市場の有力プレーヤーになり得る。[16]

## 2.5 AIエージェントシステム自体の特許戦略対象化

Perplexity ComputerのようなマルチエージェントAIオーケストレーションシステム自体が、新たな特許出願の対象となる。AIエージェントに関する特許は、以下を主張できる可能性がある：[17]

- 分散推論・連合学習・エージェントスウォームの特定の実装方式
- 非汎用的なクラウドインフラ上での展開アーキテクチャ
- タスク分解・サブエージェント生成の独自アルゴリズム

*Enfish v. Microsoft*の判例が示すように、コンピュータ自体の機能を改善するものは特許適格性を持つ可能性が高く、AIオーケストレーション技術のFTO分析と自社出願戦略の立案が急務となる。[17]

---

# 3. 知財業務における課題・リスク（ネガティブインパクト）

## 3.1 機密情報・未公開発明データの漏洩リスク

知財業務における最大の懸念は未公開発明情報の外部流出である。Personal ComputerはローカルMac miniを通じてファイルシステム全体にアクセスするため、未公開の特許出願書類・発明提案書・技術ノートが意図せずクラウド側のAI処理に利用されるリスクがある。

リスク項目	内容	深刻度
未公開発明の公知化	OA対応やドラフト作成でクラウドに送信されたデータが外部利用される	極めて高い（新規性喪失）
営業秘密・技術秘密の漏洩	ローカルファイルへのAIアクセスによる関連情報の意図せぬ収集	高い

守秘義務違反	弁理士法・職業倫理上の機密保持違反	高い（懲戒処分リスク）
クライアント情報の流出	特許事務所が依頼人情報を第三者AIに処理させる行為	高い

弁護士・弁理士向けのAIセキュリティ分析では、「パブリッククラウドのAIツールは、守秘義務と弁護士・依頼人特権の観点から、機密保持契約と監査管理がなければ公開プラットフォームとして扱うべき」と警告されている。[18]

日本弁理士会（JPAA）は「弁理士業務AI利活用ガイドライン」β版において、入力データが再学習に利用される可能性のあるパブリックLLMへの未公開情報の投入は**弁理士法上の守秘義務違反**に該当しうると明示している。[13]

Perplexity Enterprise ProfはSOC2 Type II認証を取得し、ゼロ・データ・リテンション（ZDR）オプションを提供しているが、このセキュリティ保証がPersonal ComputerのローカルファイルアクセスおよびMac miniデバイス上のデータ処理にも完全に適用されるかについては、現時点では詳細な技術的検証が必要である。[19][20]

## 3.2 AIハルシネーションと法的文書の信頼性リスク

生成AIの「ハルシネーション」（架空の引用文献・存在しない条文の捏造）は、特許法実務において致命的となりうる：

- 存在しない先行技術文献を引用した応答書の提出 → 不正行為（Inequitable Conduct）として特許権の行使不能リスク
- 明細書・請求項の記載不備（サポート要件違反）の見落とし → 無効審判での脆弱性
- クレームマッピングの誤認 → 進歩性判断の誤りによる権利化失敗

USPTOは、AI生成物であっても提出書類の法的・倫理的要件を確認し署名する人間の実務家が最終的な全責任を負うことを明言している。マルチエージェントシステムが複数モデルを横断して自律実行するほど、どのモデルがどの段階でどの出力を生成したかのトレーサビリティ確保が困難になる。[13]

## 3.3 AI生成発明の発明者適格性問題

USPTOは2025年に旧ガイダンスを撤回し、AI支援による発明の発明者適格性について「発明の着想（Conception）は自然人の心の中で形成されるもの」という原則を再確認した。Perplexity Computerが自律的に技術的限定事項を含む補正案を提示した場合：[13]

- その「着想」が人間か機械かを区別する記録の保持が必須となる
- 適切なドキュメンテーションなしでは、将来の無効審判で発明者適格性が争われるリスクがある

- 国際出願における優先権主張においても、AI発明者記載による優先権不成立リスクが明確化されている[13]

### 3.4 「AI vs AI」パラダイムにおける対応の非対称性リスク

USPTOはすでにAI駆動の先行技術検索システム（SCOUT、SimSearch）を審査官が日常利用しており、2025年10月～2026年4月にかけて「AI自動検索パイロットプログラム（ASAP!）」を実施中である。[21][13]

審査側がAIで武装するほど、出願人側が旧来の手法に依存し続けることは**競争劣位**に直結する。しかし同時に、AIを活用した網羅的先行技術調査が可能になると、AIが発見できなかった先行技術の見落としに対する法的責任がより厳しく問われる可能性もある。

### 3.5 職業倫理・責任帰属の再定義

Perplexity Computerが「3.25年分の業務を4週間で完遂」というパフォーマンスを知財業務に適用した場合、以下の倫理的問題が浮上する：[1]

- **弁理士のビジネスモデル変革**：AIで業務時間が大幅短縮された場合、クライアントへの請求額（ビルアブルアワー）を引き下げるべきかという議論[13]
- **専門家の責任の所在**：自律実行されたワークフローにエラーが生じた場合の法的責任
- **スキルの陳腐化と高度化の二極化**：ルーティン作業はAIに移管され、戦略的判断能力への要求が急激に高まる

## 4. AIに委任できる業務と人間の専門性が不可欠な業務

2026年現在、知財業務における「AIへの安全な委任範囲」と「人間の介入が絶対的に必要な領域」は以下のように整理できる：[13]

業務タスク	AI適合性	推奨アプローチ
先行技術の一次検索・収集	高	AIに委任（ただし必ず一次ソース確認）
長文特許文献の要約・論点抽出	高	AIに委任（見落とし確認を追加）
明細書・請求項の形式チェック（誤記・整合性）	極めて高	AIに全面委任可能

OA応答書の初期ドラフト（シェル）作成	中～高	Copilotとして活用（取捨選択は人間が実施）
クレームと引用文献の差異抽出（一次解析）	中	法的同一性の最終判断は人間が実施
期限管理・ドCKETTINGのアラート	高	AIに委任（確認ステップを維持）
発明抽出・発明提案書の骨格作成	中	Copilotとして活用
権利範囲（クレームスコープ）の最終決定	委任不可	弁理士・知財専門家が全責任を負う
第103条自明性に対する反論論理の構築	低～中	人間の高度な技術的・法的洞察が必須
事業戦略との整合を踏まえた出願戦略	委任不可	知財専門家によるビジネス判断が不可欠
AI生成コンテンツの著作権・発明者適格性判断	委任不可	法的リスク評価は人間が実施

## 5. 日本の知財部門・特許事務所への実践的示唆

### 5.1 採用すべきワークフロー設計

Perplexity ComputerおよびPersonal Computerを知財業務に活用する際の推奨アプローチは以下のとおりである：

1. **タスク細分化原則**：大規模タスクを一括委任せず、離散的な小タスク単位でAIにプロンプトを与え、各段階で人間が出力を検証・修正する反復ワークフローを構築する[13]
2. **二段階調査アプローチ**：Pass 1（発見フェーズ：広範なシードリファレンス収集）→ Pass 2（証拠フェーズ：要素別クレームチャートと引用箇所マッピング）を維持する[11]
3. **一次ソース検証の徹底**：AIが提示した引用文献は必ず一次ソース（特許PDF・経過記録）で確認し、audit-readyなログを保持する[11]

### 5.2 セキュリティ要件の充足

未公開発明情報の処理に際して必須となるセキュリティ要件：

- **Enterprise版の利用限定**：Perplexity Enterprise Pro (SOC2 Type II・ZDR対応) を使用し、個人アカウントでの機密情報処理は厳禁[20][19]
- **ゼロ・データ・リテンション確認**：Personal Computerのローカルファイルアクセスが学習データとして外部利用されないことを契約・技術的に確認する
- **未公開情報の隔離**：出願前の発明情報は、ZDR保証のない環境には一切入力しない (JPAAガイドライン準拠) [13]
- **Shadow AI対策**：組織内でのAI利用状況を統制し、従業員がパーソナルアカウントのPerplexityに業務情報を入力することを防ぐガバナンスの整備[22]

### 5.3 競争優位のポジショニング

- 競合他社・競合国 (米国企業の生成AI活用率95%、CNIPAの自動審査システム等) に対抗するため、Perplexity Computerを含む生成AIの段階的統合は「選択肢」から「競争上の必須要件」へと変化している[16]
- AI支援ツールの導入により特許品質が特許量よりもイノベーション収益を牽引する傾向が確認されており、量的処理の効率化で生まれた時間を戦略的特許戦略の立案に振り向けることが重要である[16]
- 自社のPerplexity Computer活用ノウハウ自体を、競合に対するアドバンテージとして「営業秘密」で保護することも検討に値する[23]

---

## 6. 今後の展望

生成AIの技術トレンドは、テキストを受動的に返す「チャットボット」から、目標を与えられれば自律的に多段階タスクを完結させる「エージェントAI」へと進化している。近い将来 (2026~2028年) の特許実務において想定される展開：[24][25]

- **AI同士の自律交渉 (AI-to-AI Negotiation)**：出願人AIエージェントと審査官AIツールがクレーム範囲を半自律的に協議する実験的枠組みの試行[26]
- **特許庁との直接連携API**：Perplexityが発表した4つの新API (Search・Agent・Embeddings・Sandbox) を通じ、特許庁のシステムとの直接インターフェースが整備される可能性[27]
- **Perplexity Financeとの統合**：Bloomberg・FactSet対抗として発表されたPerplexity Financeが、競合企業の特許ポートフォリオ情報とビジネス指標を統合した戦略分析を可能にする[4]

AI支援特許起草ツール市場は2025年から2033年にかけて3倍以上の成長が見込まれ、特許実務の自動化・高度化は加速の一途をたどる。知財専門家は、AIを「戦略的パートナー」と位置付け、業務プロセス全体の再設計を能動的に主導する立場から、Perplexity ComputerおよびPersonal Computerが切り拓く新しい業務パラダイムに適応していくことが求められる。[16]

---

# References

1. [Perplexity Announces 'Personal Computer,' an AI Agent for Macs ...](#) - Perplexity, a company that develops AI search services, has announced 'Personal Computer,' an AI a...
2. [PerplexityがOpenClawのようにPC操作を自動化するMac上で動作 ...](#) - AI検索サービスを展開するPerplexityが、PC上で24時間動作してPC作業をサポートするAIエージェント「Personal Computer」を発表しました。2026年2月に発表した既存のあ...
3. [Perplexity's 'Personal Computer' brings its AI agents to the, uh, Personal Computer](#) - Perplexity says AI access to your files is in "secure environment with clear safeguards."
4. [Perplexity Unveils "Personal Computer" AI Agent & Developer ...](#) - A Mac mini becomes a 24/7 autonomous AI worker. Perplexity released four developer APIs and took d...
5. [OpenClawキラーなるか？Perplexity、Mac miniを常時稼働 ...](#) - Mac miniが「もう一人の自分」になる時代？AIに質問を投げ答えを待つ時代は、もう終わりに近づいているのかもしれませんが。Perplexityが3月11日、初の開発者会議「Ask 2026」で発表...
6. [Perplexity's Personal Computer lets AI agents access your Mac mini's files](#) - Perplexity is bringing its AI closer to its users, with a new Personal Computer that combines its a...
7. [Perplexity AI launches Personal Computer: What it is, how the ...](#) - Perplexity AI launches 'Personal Computer', a 24/7 cloud-based Mac mini system, integrating local ap...
8. [Perplexity、Mac miniを専用エージェントにする「パーソナルコンピュータ」 \(Impress Watch\)](#) - AIサービスを展開するPerplexityは11日(米国時間)、Mac mini上のローカルで動作し、24時間365日動作するエージェントにする「パーソナルコンピューター(Personal Comp
9. [Perplexity Patents: Technical Overview and Developer Guide](#) - Perplexity Patents: Technical Overview and Developer Guide
10. [How to Use Perplexity AI for Patent Research](#) -  BTEHub Tutorial: Patent Research with Perplexity AI In this tutorial, you' ll learn how to use Perp...

11. [Perplexity Patent Search Workflow for Defensible Prior Art](#) - Learn a repeatable Perplexity workflow for faster, defensible prior art searches: prompts, filters, ...
12. [7 Best Patent Search Tools for IP Pros in 2026](#) - Patsnap is an AI-powered intellectual property intelligence platform built for patent attorneys, IP ...
13. [令和8年（2026年）における生成AIの特許中間処理への応用](#) - 1. 序論：特許実務における生成AIの現在地と「実証の年」としての2026年 2024年が人工知能（AI）に対する無条件の期待とハイプの年であったとすれば、2025年から2026年にかけての期間は、A...
14. [知財AI TM - リーガルテック](#)
15. [リーガルテック社、知財業務の属人化に終止符「知財AI™」でナレッジ継承と効率化を同時実現](#) - リーガルテック株式会社のプレスリリース（2025年10月16日 10時30分）リーガルテック社、知財業務の属人化に終止符「知財AI™」でナレッジ継承と効率化を同時実現
16. [特許事務所・企業知的財産部門における生成AI活用 ...](#)
17. [Are AI Agents Patentable? Powerful Strategies for ...](#) - At the same time, trade secrets may offer complementary protection for aspects such as model weights...
18. [Is Perplexity Private for Lawyers? Client Data Security Guidewww.spellbook.legal > learn > is-perplexity-private](#) - Wondering if Perplexity AI maintains privacy? Discover how Perplexity handles user data and whether ...
19. [How Perplexity Enterprise Pro Keeps Your Data Secure](#) - With advanced privacy protections, admin controls, and compliance-ready infrastructure, Enterprise P...
20. [Perplexity vs ChatGPT: Privacy and Legal Compliance Compared](#) - Evaluate the privacy practices of Perplexity and ChatGPT to determine which AI platform provides the...
21. [Artificial Intelligence Search Automated Pilot Program | USPTO](#) - 111(a) on or after October 20, 2025, and on or before April 20, 2026, are eligible to participate in...
22. [Secure Internal Perplexity - Private, Compliant, and Fully Controlled](#) - Detect Shadow AI usage across your enterprise. Transform uncontrolled ChatGPT, Claude, and Perplexity...
23. [The Role of Trade Secrets in Protecting AI and Deep ...](#) - We'll talk about what qualifies, how to protect it, what to avoid, and when it's smarter to keep code...

24. [Best AI Patent Search Tools in 2026: The Definitive Guide for R&D and ...](#) - Cypris is the leading AI-powered R&D intelligence platform for enterprise patent search and technical...
25. [Towards Automated Patent Workflows: AI-Orchestrated Multi-Agent ...](#) - Patents are the currency of innovation, and like any currency, they need to be managed and protected...
26. [AI-to-AI Negotiation in Patent Prosecution: A Glimpse Into the Future ...](#) - Can AI and LLMs revolutionize patent prosecution by automating drafting, examination, and office act...
27. [対話型AI検索およびAIエージェント技術のPerplexity](#) - 対話型AI検索およびAIエージェント技術のPerplexity、新サービス「Personal Computer」を発表